

地域の伝統芸術・文化を生かした体験活動

京都府向日市立第2向陽小学校

学校の概要

学校規模

学級数：19学級

児童数：504人

教職員数：33名

体験活動の観点から見た学校環境

向日市は京都盆地の西南部に位置し、南は長岡京市に、他の三方は京都市に接し、人口は約5.3万人で面積が7.67km²の市である。西部一帯になだらかな丘陵地帯が横たわり自然が残っている。市の中央部は住宅街形成し、また、古墳や長岡京跡など文化財も多数ある。

学校は向日市の北西西ノ岡丘陵に位置し、風光明媚な竹林地帯に接している。向日市の東部は平地で、阪急電鉄京都線、JR東海道線、国道171号線が平行に通り、京阪神地域への交通が至便である。年々宅地化が進み、農地の減少とともに農業人口の減少が見られる。特産品にはタケノコ、懸崖菊、なす、トマトなどがあり、ハウス栽培による施設園芸農業が盛んである。

連絡先

〒617-0001

京都府向日市物集女町南条70

電話：075-932-1002

FAX：075-932-0896

ホームページ：

<http://www1.kyoto-be.ne.jp/2kouyou-es/>

電子メール：

2kouyou-es@kyoto-be.ne.jp

体験活動の概要

活動のねらい

地域に在住のその道の達人・名人と交流する中で、職人氣質や技のすばらしさにふれ、生き方を考える体験をする。

社会における人とのつながりの大切さ、勤労を尊ぶ態度、人と関わる力を育てる。

体験を通して、豊かな人間性を育む「心の教育」の充実を図る。

主な活動内容・方法（位置付け・期間等）

第5学年児童が興味・関心に基づきその道の達人・名人探しをした。

地域に在住の手に職を持つその道の達人・名人を探し出し、その家に出かけ弟子入りをして師匠に学んだ。

弟子入り体験の地域の伝統芸術・文化
友禅染、竹細工、陶芸、大工、たたみ
三味線、生け花、習字（書道）

和服着付け、和菓子、茶道

期間：11月下旬～2月

弟子入体験日数：3日間

教育課程上の位置付け

総合的な学習の時間 2 1時間

道徳 3時間 特別活動 3時間

体制等の工夫

第5学年担任3名、教務主任、教頭、校長
地域の達人・名人として指導に当たった
方々17人

活動の成果等

児童は師匠の華麗な技を少しでも習得しようとする意欲を持ち続けることができた。

厳しい修行の中、児童に技の習得の難しさに耐える心、勤労を尊ぶ態度が育った。

弟子入り体験で信頼関係と人間関係の構築の大切さを学ぶことができた。

1 活動に関する学校の全体計画

(1) 活動のねらい

ア 豊かな人間性を育む「心の教育」の充実のために、地域のその道の達人・名人と交流する中で、生き方、技のすばらしさ、人とのつながりの大切さを感じ、人と関わる力を育てる。

イ 様々な分野の達人・名人の技にふれること、本物の技を持つ人とふれあうことを通して、児童の意欲が持続し、厳しさと楽しさを味わいながら活動を展開していく体験をする。

(2) 全体の指導計画

ア 活動の名称

「達人・名人をめざそう」

イ 実施学年

第5学年 83名

ウ 学習内容

第5学年の総合的な学習の時間において、「達人・名人をめざそう」という体験活動を取り入れた実践をした。児童は、機械作りでは味わえない、手に職を持つ様々な分野のその道の達人・名人を探し出し、弟子入りの条件や稽古・訓練・達人技の習得の課題を設定し、児童が自ら、達人・名人の家に出かけてそれに挑んだ。

(児童がチャレンジした職種)

友禅染、竹細工、陶芸、大工、三味線、生け花、習字(書道)、茶道、和服着付け
和菓子、たたみ

児童が自ら選んだ修得したい技を持つ達人・名人のもとへ行く前に、師匠に教えてほしいことや意欲の表し方、マナー等を考え、事前準備を万端にしてから、グループ毎に師匠の家などを訪問し、弟子入りを開始した。

この学習活動中に児童自身がさらに課題を明確にし、師匠の指導・支援を受けながら課題解決に取り組んでいった。

エ 教育課程上の位置付け：総合的な学習の時間、道徳、特別活動

オ 実施時期：2学期後半から3学期にかけて実施した。

時間数：総合的な学習の時間21時間、道徳3時間、特別活動3時間

その内、弟子入り活動の日数3日間

カ 活動場所

友禅染修行：友禅染め職場、竹細工修行：竹細工仕事場、陶芸修行：陶芸工房

大工修行：本校図工室、三味線修行：三味線師匠の家、生け花修行：生け花師匠の家

習字(書道)修行：書道師匠の家、和服着付け修行：着付け師匠の家

たたみ修行：畳店の仕事場、茶道修行：茶道師匠の家

和菓子作り修行：和菓子店の仕事場

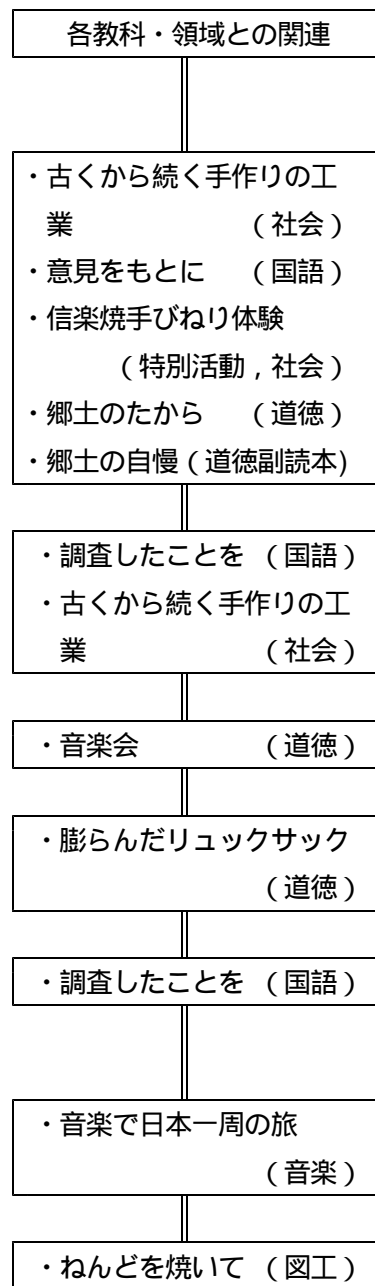
キ 継続の状況等

(ア) 11分野における児童の弟子入り修行の成果を学校の各教室や特別教室を使って展示し、師匠や保護者、地域の人達に披露した。

(イ) この取組の趣旨は、PTAが主催する「にこにこ地域の達人・名人教室」という名前でボランティア指導者を募集し、全校の児童や保護者、地域の人が参加して楽しむ年1回の半日行事として生かしている。

ク 全体計画（総合的な学習の時間：全21時間）

	学 習 活 動	指 導・支 援
1 次 課 題 の 探 究	「地域内で達人・名人探しを始めよう」 ・地域にどのような達人・名人がいるか考える。 ・探し方を考える。 ・誰かに聞く（保護者、知り合い等）	・伝統文化，工業，産業に携わるプロの職人を達人・名人として探すことを伝える。自分たちで見つける方法を考えさせ，見つからなかった児童には教師側で依頼した達人・名人に入門するよう助言する。
2 h	「見つけた達人・名人を発表しよう」	
2 次 課 題 の 設 定	「弟子入りする達人・名人を決めよう」 ・自分が習いたい技ごとにグループに分かれる。 「弟子入りする前の準備をしよう」 ・学習を見通して，課題意識を持つ。挨拶等について考える。	・自分の意欲を最優先にしてグループに入ることを助言する。 ・入門前に準備しておくべきこと（礼儀，態度等）について指導する。
2 h		
3 次 課 題 の 追 求	「達人・名人のもとで修行しよう」 ・弟子入りをお願いするときの注意を思い出す。 ・見通しを持って，グループ内で協力し合って学習を進める。 ・弟子入り日記をつけることで自分の学習を毎回振り返る。	・強い意志を持って修行するようやる気を引き出す。 ・1回目の弟子入りで，作業工程を全て見て，そこから自分のやりたいことを見つけるよう伝える。（達人，名人には事前に依頼済みである。児童には師匠の都合を聞いて今後の計画を立てるように指導する。）
9 h		
4 次 課 題 の 深 化	「自分たちの師匠の紹介文をまとめよう」 ・紹介文を掲示できるようにまとめる。 ・修行先でお世話になっている師匠の技，生き方などをまとめる。	・まとめの形式，内容は自由であることを伝える。（模造紙，画用紙など） ・弟子入りを通して師匠について，生き方，技そのものを中心にまとめるよう指導 ・支援をする。 ・困っているグループには助言をしながら進める。
4 h		



5 次 課 題 の 拡 大 2 h	<p>「自分たちの習った技を伝えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 師匠や友達の前で修行した成果を発表する。 ・ 発表形式は師匠の助言を得て自分たちで決める。 ・ 自分の新たな課題に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 師匠や参観者の前で習得した技を落ち着いて披露できるように指導・支援する。
6 次 学 習 の ま と め 2 h	<p>「取組のまとめをしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分達の学習を振り返り取組の成果を確認する。 ・ 弟子入り日記を見て、振り返りながら修行で得たものは何かまとめる。 ・ 自分がお世話になった師匠に対して感謝の気持ちを込めたお礼のし方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域にいる達人・名人を知り、交流を深めることができたか等について感想をまとめさせる。 ・ 修行をした結果の達成点、反省点、心の成長した点は何か、弟子入り日記を見ることで思い出すよう指導・助言をする。



[友禅染]



[竹細工]

2 学習活動の実際

(1) 事前指導

ア 児童に自ら選んだ達人・名人のもとに修行に行く前に次のことを考えさせた。

- ・ 挨拶の仕方 ・ これをやりたい理由
- ・ 教えて欲しいこと
- ・ 弟子入りを認めてもらうにはどのようにすれば良いか。

イ 達人・名人の技、作品、芸術・文化分野について調べた。



[陶芸]

(2) 学習活動の展開

【11月27日～12月5日 弟子入り先開拓期間】

最初に児童がやってみたい技、覚えたい技を中心に様々な分野の達人・名人探しを進めた。児童が自ら、探し方、調べ方を考えた。

家の人や近所の人に相談したり、地域を歩いて探したり、タウンページを活用したり、インターネットで探した。いくつかのグループは、自力で弟子入り先を探すことができた。

【12月6日～12月13日 弟子入り先決定期間】

児童が見つめてきた達人・名人を学年で発表した。そして、希望者でグループを作り、弟子入り活動先を決定した。



[大工]

【12月14日～12月18日 課題設定期間】

弟子入りする前にしておくことを考えた。事前に、各班毎に修行先での挨拶，基本的なマナー，体験してみたい技について話し合った。

【12月19日 弟子入り日1】

児童は，それぞれ達人・名人のところへ出向き，決意等を話し，入門をお願いするとともに，師匠の技や仕事等を見せてもらい，自分の目標を立てた。

【1月11日 弟子入り日2】

その技の分野に関わる話，制作，演奏，道具等の説明などを聴き，稽古に入った。

【1月15日 弟子入り日3】

技の伝達

【1月16日 発表会に向けての相談】

準備物，発表会の次第，発表に必要な資料や道具の調達等を話し合った。

【1月18日 発表会に向けての準備】

【1月23日 「達人・名人全員集合！」地域へ】

公開授業 児童は，師匠に弟子入りして学んだ修行の成果を見てもらった。

(3) 事後指導

【2月～ 活動振り返り期間】

伝えてもらった技を校内の児童に披露し伝える活動をした。礼状や感想を書いて師匠にとどけた。

3 体験活動のための体制

(1) 学校の体制，家庭や地域，関係団体・施設・機関等との連携

児童がそれぞれ地域の達人・名人の所へ出向いて弟子入り活動をするので，担任はすべてにつくことはできない。5年生担任の3名と教務主任，教頭，校長が分担をして，それぞれ11の弟子入り活動場所を訪問し，師匠への挨拶をして廻るとともに弟子入り修行の様子を写真に撮ったり，記録したりした。

達人・名人のゲストティーチャーとして指導に当たった人は17人であり，それぞれ仕事の時間を割いて，指導のための準備を入念に行い，プロの道具を使わせることを含めて，児童の体験活動に真剣に協力してくれた。

(2) 活動の場や指導者の確保等の手立てや工夫

担任，管理職，事務職員が，受入先の開拓や活動を実施する際の調整を行ったほか，保護者等にも協力を依頼した。

依頼にあたっては，この取組を『人と関わる力を高め，生きる



[三味線]



[生け花]



[習字(書道)]



[茶道]

力をつける』ため、『厳しい試練を乗り越えた達成感を味わわせる』ためのものであることを説明したほか、学習内容に関する指導案を作成し、事前に達人・名人と綿密な打合せを実施した。

(3) その他

達人・名人等のゲストティーチャーについては、活動を実施する際に保険に加入させていただくこととしているほか、5,000円を限度に材料費を支給した。また、活動実施後には、ゲストティーチャーへの礼状などを作成した。



[着付け]

4 成果と課題

(1) 成果

達人・名人の厳しい指導の中、本物の技に触れたことの喜びが大きく、意欲的に師匠の華麗な技を少しでも習得しようとする態度が見られた。

達人・名人として指導に当たった方々は、伝統的な技を習得する修行の厳しさや課題を達成したときの喜びを児童に少しでも味わわせたいと、熱心に指導した。それが児童の充実感につながり、自分の課題に気づき、それを追求し解決しようとすることによって、将来の自分の生き方を考えることができた。



[和菓子]

達人・名人のゲストティーチャーと児童の間に強いつながりができ、体験学習が終わった後も、もっと続けたいという児童も多くいた。後日、2月の雨の強く降る日曜日に師匠の家にお礼にうかがうとともに、「交流を続けさせてください。」と頼み込んだグループがあった。ゲストティーチャーとして指導に当たった方からの感想には、「あの厳しさを乗り越えて児童が訪ねてくれたことに喜びと感動を覚えた。」とあった。



[たたみ]

(2) 課題

運営上、今後も多くの社会人講師を継続的に確保していくことが課題である。

本体験活動と各教科等との有機的な関連を図り、整理することが必要である。

5 今後の取組の方向

(1) 次年度に向けての改善の方向

本市においては、都市化が進み農業に携わっている人は減少し、高齢化が急速に進んでいる。今後も、特産品作りの技や施設園芸農業の技を学ぶことを含め、地域の特性を生かした体験活動を充実させていきたい。

【本事例活用に当たっての留意点】

この体験活動のねらいは、地域に在住する「その道の達人・名人」と直接交流することを通して、地域の伝統芸術や文化に理解を深め、「人と関わる力を高め、生きる力をつける」こと、さらに「厳しい試練を乗り越えた達成感を味わわせる」ことである。友禅染、竹細工、陶芸など11の分野の「達人・名人」に、子どもたちは「弟子入り」し学んでいる。

地域の「達人・名人」は、「ゲストティーチャー」として子どもたちの指導に当たってもらう。「達人・名人」とは活動に入る前から信頼関係を築くよう、教師は、「達人・名人」と事前の打ち合わせや準備を念入りにしている。子どもたちも、活動に入る前に、「達人・名人」から教えを受ける際の挨拶・態度を学び、課題に対する意識をもつような指導を受け、積極的に活動に取り組めるようになっている。

なお、総合的な学習の時間における活動については、この時間のねらいとするところを十分に踏まえ、各学校において目標や内容等を設定するよう留意しなければならない。